

# 「岩木健診」18年目始動

## 短命県返上へ800人参加

弘大など

短命県返上に向け、弘前市岩木地区住民の詳細な健康データを収集・活用する

「岩木健康増進プロジェクト健診（岩木健診）」の本年度事業が4日、岩木文化センターで始まった。13日までの10日間で、20歳以上の

800人弱が参加する予定。

弘前大学と弘前市、県総合健診センターが主催し、今年で18年目。例年約1100人が参加しているが、新型コロナウイルスの影響で2020、21年は600



さまざまな観点から受診者の健康状態を調べる岩木健診の会場

人前後の受診だった。今年のはワクチン3回接種または2週間の健康観察を受診条件とし、コロナ感染対策を取った上で検査項目やブース数を本来の規模に戻した。

調べるデータは体格、血圧、内臓脂肪、体力、食事、喫煙・飲酒など約3千項目で、所要時間は1人約4時間。手のひらを当てて野菜摂取量を測るセンサーなど、会場には多様な機器・設備が並んだ。初めて参加したパート従業員の女性（37）は「結果を食事や生活習慣の改善につなげたい」と話していた。

05年に始まった岩木健診は、膨大な健康データを解

析し、病気の予兆を見つけて予防法を開発するのが主な目的。県内外の大学や研究機関、企業など20〜30機関が参画している。

弘前大学医学研究科の中路重之特任教授は「健康づくりは楽しみながら続けることが大事。健診が18年目となり、住民の方々の意識も高まっていると思う」と語った。

（古川靖隆）